

人権学習展開例

主 題 名 結婚差別

教 材 名 差別と向き合い、乗り越えるために ～結婚差別～

人権学習の視点 個別的な視点「同和問題」

主題・教材について

結婚は社会生活の新しい門出であり、憲法24条でも「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により維持されなければならない。」とされている。

しかしながら、結婚が具体化すると、同和問題への無理解や偏見により、家族や身近な人から結婚を反対されたり、さらには当事者の人格までもが否定されたりするような差別に対峙することがある。

この教材では、結婚差別につながる場面を設定し、差別意識を解消するために何が必要かを考えさせるとともに、同和問題に起因する差別の構造を理解し、自分たちの課題として受けとめさせたい。

ね ら い

- 同和問題への無理解や偏見により結婚差別に対峙することがあることを知り、同和問題の解決を自らの課題として捉える。
- 結婚差別にかかわる具体的な問題を通して、差別に対する鋭敏な意識をもち、問題解決に向けて実践できる態度を身に付ける。

本時の展開

●展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○本時の学習内容を知らせる。	一斉	○本時の学習内容を知る。	○結婚差別は、自分たちの身近な問題であることを伝え、本時の学習課題を確認させる。	
展 開	「人の値うち」を読んで感じたことや疑問に思うことについて話し合おう				
	○詩を読んで、同和問題について考えさせる。 ※「人々はいつの日このあやまちに気付くであろうか」という問いかけに今の自分たちはどのように答えられるかを考えさせる。	個別 一斉	○江口いとさんの詩「人の値うち」を読んで、感じたことや疑問に思ったことをワークシートに書き、発表し合う。	○詩の表現を踏まえて、どのように感じたか、どこが問題かを書かせ、発表させる。 ○社会的身分、門地、人種、民族、信条、性別、障害等で人の値うちを決めてしまうことの不合理さに気付かせる。 ○同和問題にかかわることであることを理解させる。	生徒資料 「人の値うち」 ワークシート 項目1
	「結婚差別」の現状はどうなっているのだろう				
	○兵庫県の意識調査から同和問題の中で結婚問題が大きな課題であることを理解させる。 ○結婚差別の現状を理解させる。	一斉	○グラフを見て同和問題の中で結婚差別の占める割合の大きさを理解する。 ○同和問題から差別意識の根深さ、起こりやすさを理解する。	○差別意識が変わりにくいことを理解させる。 ○結婚差別は身近な問題であり、家族をも巻き込み、当事者が孤立するという深刻な事態を招くことを理解させる。 ○同和問題と結婚差別との関係に気付かせる。	生徒資料 「兵庫県の調査」 ワークシート 項目2

あなたならどう答えますか？				
展 開	○差別を乗り越えるために、どのように行動するかを考える活動を通して、差別を許さず、向き合っていこうとする態度を培う。	一斉	○登場人物のものごとの見方や発言が、同和問題に起因することを確認する。	生徒資料 ワークシート 項目3 指導資料 「風習・迷信」
		個別	○自分ならどう答えて相手を説得するかを考える。	
ほ う す	○結婚差別は、決して許されない人権侵害であることを確認させる。	一斉	○結婚差別につながる言動が今なお身近に見られるが、決して許されないものであることを確認する。	ワークシート 項目3
	○差別に気付いた時、どのように行動しようと思うか、自分の考えを述べるべきかを書かせる。		○自分が差別に気付いた時にどのように行動しようと思うかを書く。	
			○一人一人の行動が差別の解消につながることを理解させる。	
			○差別に毅然とした態度で臨むことが重要であることを確認させ、その解消に向けて主体的に取り組むべきことを書かせる。	

評価

- 同和問題への無理解や偏見により結婚差別に対峙することがあることを知り、同和問題の解決を自らの課題として捉えることができたか。
- 結婚差別にかかわる具体的な問題を通して、差別に対する鋭敏な意識をもち、問題解決に向けて実践できる態度を身に付けることができたか。